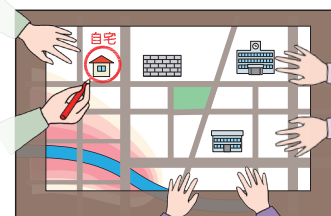


自然災害ハザードマップの使い方

このハザードマップには、普段から災害リスクを認識したうえで、自分が知っておくべき「危険箇所」「避難所・緊急避難場所」、「避難経路」、「家族との連絡方法」などの必要な情報を書き込んで、「自分だけのハザードマップ」を作成しましょう。

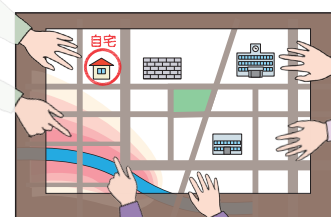
1 自宅の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。



2 洪水浸水や土砂災害などの危険を確認する

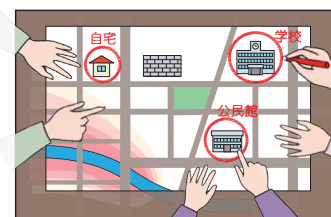
災害ごとのハザードマップを見て、自宅周辺が災害の危険区域になっていないか確認してください。



3 避難する場所を災害ごとに確認する

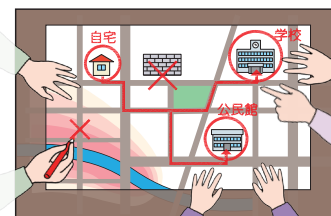
たとえば、浸水被害が予想される場合は浸水危険区域にある避難所は開設されないなど、災害によって開設する避難所・緊急避難場所は変わってきます。災害別に開設する避難所を確認し、どのような災害が起きたときはどこに避難するのか決めておきましょう。

※災害の種類によっては利用できない施設があります。



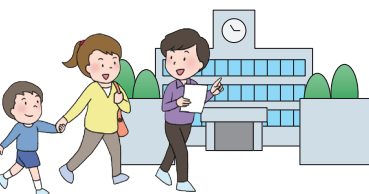
4 安全な避難経路を考える

3で決めた避難所・緊急避難場所までの経路を考えましょう。早めに避難するのが一番ですが、すでに荒天となってしまった場合は「浸水の危険のある場所」を避ける、地震による避難の場合は「ブロック塀等の危険な場所を避ける」など、安全な経路を見つけておきましょう。



5 避難について家族や近所の人と話し合う

「周辺の危険箇所」「避難する場所」「避難経路」などについて、家族や近所の人と話し合っておきましょう。いざというときには、慌てず、声を掛け合って、最善の避難行動がとれるように心構えをしておきましょう。



6 自分たちの目で避難経路を確認する

避難所・緊急避難場所までの経路を、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。マップ上では気が付かなかった危険箇所や注意点などを記録しておきましょう。



7 避難時の持ち出し品などを準備しておく

避難するときの持ち出し品など、必要なものを準備しておきましょう。